

平成20年度 事業計画書

目 次

【1】 学園の事業計画（概要）

- 1．財政計画
- 2．学園の教育環境整備
- 3．地域への取り組み

【2】 設置校の事業計画

- 1．日本文理大学
- 2．日本文理大学附属高等学校
- 3．日本文理大学医療専門学校
- 4．NBU 大分美容専門学校

学校法人 文理学園

平成20年度 事業計画書

学校法人文理学園は、「産学一致」の建学の精神に基づき地域社会との連携をこれまで以上に緊密なものとし、社会のニーズに応えられる人間力の育成と専門的な知識・能力を兼ね備えた人材を社会に送り出すため、教育環境を更に充実させるための財政基盤を堅固なものにすることを念頭に置き、平成20年度事業計画を作成しました。

【1】学園の事業計画（概要）

1. 財政計画

（単位：百万円）

区 分	平成19年度 決算額	平成20年度 予算額
資金収入	8,997	4,139
資金支出	12,562	4,772
資金増減額	3,565	632
帰属収入	3,917	3,891
消費支出	5,803	5,136
消費収支差額	2,160	1,660
資産総額	45,163	-

（注）1. 単位未満切捨て

2. 資金収支及び資金支出は、繰越支払い資金控除後

2. 学園の教育環境整備

学園の教育環境整備を以下のとおり計画する。

）大学について

教育環境整備として、教育設備・備品の整備、スポーツ施設整備、学内案内標識整備、経年劣化した動力機器更新、情報センター雨漏れ対策工事、教育設備機器設置休止状態の第2発電所を解体して有効利用、食堂棟前噴水附近環境整備を実施する。

）附属高校について

校舎改修工事を年次計画にて実施しており、今年度は、4階フロアー改修、老朽化した浄化槽を市の公共下水道管への接続、機械実習室整備。亀川研修所建物解体後の整備計画を行い、サークル、部活動に有効活用できるように建物改修、所

内の整備を実施する。

) 医療専門学校について

構内入口周辺整備、学生休憩所設置、学内案内標識整備、危険箇所の安全対策工事、校舎レイアウト整備を実施する。

) 美容専門学校について

防犯上設置しているセキュリティー設備を整備する。

3. 地域への取り組み

学園の設置する各々の学校が所在する地域の自治体、民間企業及び住民とのコミュニケーションを緊密なものにし、教育研究活動も含めて一層の協力体制を築き、地域に開かれた学校としての充実・強化を図っていきます。

【2】設置校の事業計画

1. 日本文理大学

(1) 教育改革

-) 在学生在が満足する教育を提供できる教育体制を実現するために、授業、課外活動、キャンパスコミュニケーションにおいて、教員が業務を勤勉に担当するよう改革し、職員は大学の教育研究業務が停滞しないように、業務の遂行状況を改善する。
-) 在学生の満足度を高めること、卒業する学生の就職実績を向上すること、大学の社会的評価を高めること、を推進し、入学志願者を増やす。
-) これらの改善改革の具体的項目は、授業方法、IT 語学教育、カリキュラム、教養基礎科目と専門科目の位置づけと内容、資格取得支援、少人数の担任制、学生支援強化、部活・課外活動の積極支援、キャンパスコミュニケーションの充実、留学生教育、図書館利用、教育研究組織、教員と職員の業務、管理運営などである。
-) 建学の精神である「産学一致」、及び大学の基本理念である「産学一致」、「人間力の育成」、「社会・地域貢献」において、学生、教職員へは研修会等で更なる周知徹底を図る。
-) 第三者評価を日本高等教育評価機構において受審する。現在進めている教育改革は、この受審に備える意味を持つ。

(2) 教育課程と組織

-) 在学生の円滑な教育と将来に向けた教育の改革に必要な教員数に、現在の在籍教員数を移行させる。
-) 教員の教育研究業務の評価を公正に行い、在 student 数の定員充足と収支バランス

を保つことを、学科単位、学部単位、全学の立場で実現するための活動の第1歩を平成19年度に踏み出した。これを着実に推進して、実効あるものにする。

-) 工学部5学科のうち、知能機械システム工学科、電気・電子工学科の平成20年度以降の募集を停止し、新たに機械電気工学科を設置する。
-) 学生募集を停止していた商経学部経済学科において、在籍学生がいなくなったため学科を廃止する。
-) NBU 総合研究センターは、実質的な活動及び今後の計画が無いため廃止する。

(3) 教育活動

-) 新たに「全学的一斉授業公開制度(オープンクラスウィーク)」を導入し、半期に1度、全授業を公開し、全教員が互いに参観した後、意見を述べ合うことにより、授業内容や授業方法の改善及び教育効果の増大を図る。
-) 人間力育成センターにおける学習支援体制の更なる充実を図るとともに、人間力育成プログラムの改善・完成を目指し、学生の視点に立った目的・目標に沿った教養基礎科目・専門教育科目の各科目間の連携を進める。また、社会参画授業の充実を図り、職業観の育成を確立するワークショップを導入する。
-) 平成21年度より実施される教員免許更新制に関する手続きの準備を行う。

(4) 研究活動

-) 「産学官民連携推進センター」の更なる充実を図り、外部団体と連携することにより共同研究・受託研究等につなげる。
-) 県下7大学による「地域連携コンソーシアム大分」の一員として、大分県内の研究活動を共同で推進する。
-) マイクロ流体技術研究所において、引き続き昆虫型飛翔ロボットの研究を進めるとともに、出願中の特許における審査請求の手続きを進める。

(5) 広報活動と地域貢献

-) 昨年度に引き続き、効果的なオープンキャンパスを実施するとともに、志願者に合わせたアプローチを行う。また、ウェブサイト・メールマガジン・受験雑誌への掲載・高校訪問等の相乗効果を図りながら展開していく。
-) アドミッションポリシーの更なる周知、徹底を図ることにより大学名の浸透、イメージアップに向け、共通認識を持ち積極的に広報活動を展開する。
-) 効果的なTVCMの放映・新聞広告の掲載を昨年同様、継続して行う。
-) 大分国体に多くの選手を送り出すとともに、学生ボランティア等協力体制を確立する。
-) 大分市、佐伯市との連携協力協定に基づき、地域活性化を具体化するための施策を策定し、実行する。また、地方自治体等が主催する講座において、講師派遣等の協力体制を強化する。

(6) キャリア支援

-) 就職希望者に対して100%の内定率を目指し、就職講座実践編の実施、インターンシップの充実等、フォロー体制の更なる徹底を図る。また、留学生の日本企業への就職希望者に対しては、関係各部署及び外部団体と連絡を密に取ることにより、情報収集しサポートする。
-) GAKUEN・UNIVERSALPASSPORT を就職指導へ活用できるよう、機能の拡張を図る。

(7) その他

-) キャンパスコミュニケーション活動を推進し、人間力の向上を図るため、学生同士の支え合いによるピアサポート活動の導入検討や、学生による地域貢献活動をより積極的、体系的に推進する。あわせて、各活動の効果を認定するポイント制度を導入し、意識的に人間力を向上させる運営体制を整える。
-) 外部資金導入におけるプロジェクトを立ち上げ、「産学官民連携推進センター」と連携して、積極的に外部資金の導入を図る。
-) 教職員と学生による GAKUEN・UNIVERSALPASSPORT 両システムの有効活用を推進するとともに、PC スキルの強化を図る。
-) 図書館の利用者拡大へ向けた取組みとして、教育現場との連携、学生参加型の図書館運営を実施する。

2. 日本文理大学附属高等学校

(1) 教育目標

「産学一致」の建学精神の下、校訓である「自立・勤勉・敬愛」に則り、生徒個々に対応する。また、円満な人格の形成と優れた知識・技術の練磨を行いながら、社会の有為な形成者の育成を教育目標とする。

県南における私学の要として、地域の中学生徒の減少に対しても、常時入学定員の確保を目指す。

「すべての責任は教職員にある。」「常に生徒のために」をモットーとし、学習・生活・部活動等の指導を行う。

(2) 教育活動

) 基本的生活習慣の確立

「見逃さない、見放さない、甘やかさない」を合言葉に、校則や時間の厳守、身だしなみ整えることを指導する。

校内外を問わず、大きな声ですがすがしい挨拶を心がけさせる。

) 学力の向上

教職員は授業に対する創意工夫を凝らし、生徒の実力に応じて充実した授業を行う。

学力不足者に対しては、放課後の時間を有効に利用し、基礎学力補習(国語・

数学・英語)を実施し、基礎学力の定着と向上を図る。

)部活動の強化

運動部における競技力の向上と、高校生らしいスポーツマンとしての資質を養うなかで、他の生徒の模範となるような生活態度、生活習慣を養う。

部活動の指導にあたっては、体罰を一切行わず、高校運動部の生徒としての規律を遵守させ、これまで以上に熱心に指導にあたる。

文化部においては、心を豊にするための情操教育を通じて、礼儀作法など社会に通用する人材の育成を図る。

(3) 地域社会への貢献

)ボランティア等の地域活動参加により、地域との信頼関係を構築し、他人とのかかわりを通じて思いやりの心を育ませる。

)親子パソコン教室を継続的に開催し、地域の小学校 PTA との連携を図り、本校教職員の教育力や生徒の資質をアピールする。

(4) 業務計画

)情報の共有

教職員間、各部署での「ホウ、レン、ソウ、カク(報告、連絡、相談、確認)」を徹底することにより、生徒指導や学校運営にあたる。

)生徒募集

地域との連携を強化し、地元に根ざし、「生徒が行きたい学校」としての位置付けを確立していく。

地域の塾等も訪問の対象としていく。

中学との連携強化、中高連絡員の早期生徒募集活動、大分県南以外の広域を対象とした生徒募集の取り組みを強化する。

(5) 特別進学コースの特色作り

)補習体制や内容の精選により、生徒の学習能力の向上を図る。

)佐伯市および県南地域で特別進学コースのブランド化を図る。

(6) 大学との連携

大学および学園施設設備の有効利用を進めていく。

(7) 教育力の向上

学校全体のレベルアップを目指し、教職員の研修・研鑽による教育力の向上を図る。

(8) 進路指導の強化

進学したい学校へ合格させるための学力の育成、日本文理大学への進学生確保に努める。また、就職先の開拓を行うとともに、社会人としての資質・学力を養い、就職を確実なものとする。

3. 日本文理大学医療専門学校

(1) 教育活動

国家試験合格率90%をめざすため、生徒の学習意欲を高揚させ、学校全体の活性化をはかる。

-) 生徒に学習報告書を毎日提出させ、学習報告書評価を成績に反映し、生徒の授業態度の改善をはかる。
-) 湯布院研修所勉強合宿を本年も実施し、技師・技士免許国家試験合格を確実なものにする。
-) 臨床実習巡回指導を全教員で実施する。
-) 県内の病院の負担を軽減するため、臨床実習を県外(出身県)医療施設にさらに拡大するとともに、一部先進医療施設には、優秀な学生を派遣し、臨床実習実績をあげる。

(2) 学生生活

学生生活の充実をはかり、医療技術者としての資質の向上をめざす。

-) 全校集会を毎月実施し、学生指導及び伝達の徹底をはかる。
-) フレッシュマンセミナーを実施する。
-) 個人面談を実施し、問題の把握と指導対応を徹底する。
-) 生徒の遅刻・早退・欠席をなくすため、生徒との接触を深め個人指導をさらに強化する。
-) 外部講師陣を充実させ、学年毎の進路セミナーを開催し、社会人として、また、医療技術者としての資質の向上をはかる。
-) 成績不振者に対し、放課後または早朝の補習を実施する。
-) 学生用シラバスを配布し、学習を支援する。

(3) 広報活動

参加型オープンキャンパス実施、インターネットホームページ改訂、学校案内パンフレット配布、高校訪問及び進路ガイダンス等に積極的に取り組む。

-) 参加型オープンキャンパスを年2回7月および10月に実施する。
-) ミニオープンキャンパスを毎月2回、第2・第4土曜日に実施する。
-) 高校生のための進路ガイダンスに参加する。
-) 生徒募集のための高校訪問を県外に拡大して実施する。
-) 学校案内パンフレットを県内外の各高校に配布する。
-) 医療専門学校独自のインターネットホームページ検索範囲を拡大し、内容を改定する。

(4) 学校運営及び組織改革

組織運営の円滑化をはかるため、各種改革を実施する。

-) 臨床検査学科および臨床工学科の募集定員を40名に変更する。

- ）平成21年度入学生から納入金を変更する。
 - ）学内奨学金貸与制度の新設を検討する。
 - ）校務分掌機構図と校務分掌上の業務分担及び指揮・命令系統の一本化を徹底する。
 - ）職員朝礼は全職員が参加して実施する。（電話番の事務職員を1名事務室に残す）
 - ）校長、副校長、事務長、教務主任、進路指導主任、学生指導主任、各学科教室主任から成る運営委員会を毎週水曜日放課後に実施する。
 - ）職員会議を毎月月末に開催し、教職員への周知徹底をはかる。
 - ）実験室等の備品及び消耗品を整備し、授業の充実をはかる。
 - ）各分掌、各学科において、年間目標を設定し、年度末に実施状況を診断、学校自己評価表を作成する。
- (5) 施設・設備
- 学習活動を円滑に実施するため、施設・設備の充実をはかる。
- ）職員室、事務室、保健室等を変更し、学生広場（学習コーナー、就職情報コーナー）を新設する。
 - ）薬品分析実験室を整備する。
 - ）授業内容の充実と効率化をはかるため、プロジェクターの活用を促進する。
 - ）新規導入機器の活用を促進する。
- (6) 教員の資質の向上
- 教科指導、進路指導（キャリア教育）、生活指導、特別活動指導等学校教育のあり方に対する理解度を高めるため、教員としての資質向上をはかる。
- ）学生に配布したシラバスに沿った授業を促進し、各教科・科目毎の学習指導を見直す。
 - ）授業内容を精選し、理解度を高める授業を推進する。
 - ）教職員研修を2回実施する。
 - ）研究授業を実施し、授業研修を推進する。
 - ）公開授業を設定する。
 - ）新規導入機器を活用するため、講習会を実施する。

4 . NBU 大分美容専門学校

(1) 教育活動

- ）人間力溢れる未来の美のプロフェッショナルの育成を図るとともに、学生が伸び伸び・生き生きと学べる環境を作り、「挑戦する力」「考える力」「表現する力」「夢見る力」を授業を通じて教育していく。
- ）教員全員が連携を取りながら質の高い教育を実践するため、授業研究を進める。
- ）生徒の満足度を高めるイベントを企画し、活気あふれる学校づくりをする。

- ）生徒一人ひとりにあわせた指導を行い、苦手・不得手科目を克服させる。
- ）コンテストへの参加意識・目的意識を高めて上位入賞を目指す。
- (2) 学生生活
 - ）生徒の挨拶、服装、清掃やその他マナーに関する生活指導を行い、定期的に検査を行い指導を徹底する。
 - ）教職員が連携を密にし、生徒指導法を統一・確認することにより、人間性豊かな教育に取り組む。
- (3) 広報活動
 - ）出願者数の安定確保を目指し、定数確保に向けた募集活動を展開する。
 - ）オープンキャンパスの延べ参加者数 200 人を目標にする。
 - ）学内及び学外ビューティーショーを企画・実施し、本校授業の成果をアピールする。
 - ）出張オープンキャンパスを導入し、各地で本校のガイダンスを開催する。
- (4) キャリア支援
 - ）外部講師による授業や OB との交流会を年間 10 回以上実施し、生徒により多くの情報を提供する。
 - ）サロン実習の模擬講義を行い、美容師としてのプロ意識植え付ける。
 - ）資格取得は 2 つ以上を目標とし、実習課題の基礎をマスターさせる。
- (5) 学校運営
 - ）毎週月曜日に開催する運営委員会で、1 週間のスケジュールの確認を行う。
 - ）各学科及び事務室の責任者は、職員会議（月 1 回開催）で翌月の行事・予定の詳細を提出し、校務の円滑な業務推進を図る。
 - ）全教職員間における情報の共有化を図ることを目的に、報告・連絡・相談・確認(ホウ・レン・ソウ・カク)を徹底する。